

練習問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

学習のてびき

安雄といっしょに遊びたい太郎と、遊ぶことのできない安雄のそれぞれの気持ちを読み取りましょう。

かぶと虫を持った小さい太郎は、こんどは細い坂道をのぼって、大きい通りの方へ出ていきました。

車大工さんの家は、大きい通りにそってありました。その家の安雄さんは、もう青年学校にいつているような大きい人です。けれど、いつも、小さい太郎たちのよい友達でした。陣取りをするときでも、かくれんぼをするときでも、いっしょに遊ぶのです。安雄さんは小さい友達から、とくべつにAアされていました。それは、どんな木の葉、草の葉でも、安雄さんの手でくるくるとまかれ、安雄さんのくちびるにあてると、ぴいと鳴ることができたからです。また安雄さんは、どんなつまらないものでも、ちょっと細工をして、面白いおもちゃにするのができたからです。

車大工さんの家に近づくにつれて、小さい太郎のBはは、わくわくして来ました。安雄さんがかぶと虫でどんな面白いことを考え出してくれるか、と思ったからです。

ちようど、小さい太郎のあごのところまである格子注1に、くびだけ注2のせて、仕事場の中をのぞくと、安雄さんはおりました。おじさんと二人で、仕事場の隅注3の砥石注4で、かんなの刃はをといでいました。よく見るときようは、ちゃんと仕事着をきて、黒い前垂まえだれをかけています。

「そういうふうに入力を入れるんじゃねえといったら、わからん奴やつだ

な。」

と、おじさんがぶつくさ言いました。安雄さんは、刃のとき方をおじさんに教わっているらしいのです。顔をまっかにして一生けんめいにやっています。それで、小さい太郎の方を、いつまで待っても見えてくれません。

とうとう、小さい太郎はしびれをきらして、
「安さん、安さん。」

と、小さい声でよびました。安雄さんにだけ聞こえればよかったのです。

しかし、こんなせまいところでは、^②そういうわけにはいきません。おじさんが聞きとがめました。おじさんは、いつもは子供こどもにむだ口なにかきいてくれるいい人ですが、きようは、何かほかのことで腹はらを立てていたとみえて、^{注3}太いまゆねをぴくぴくと動かしながら、

「うちの安雄はな、もう、今日から、^③一人前の大人になったでな、子供とは遊ばんでな、子供は子供と遊ぶがええぞや。」
と、つっぱなすようにいいました。

すると安雄さんが、小さい太郎の方を見て、^④しかたがないように、かすかに笑いました。そしてまたすぐ、自分の手先に熱心な眼めを向けました。

虫が枝えだから落ちるように、力なく小さい太郎は格子注1からはなれました。そして、ぶらぶらと歩いていきました。

(新美南吉『かぶと虫』)

注1 格子こしに細い角材をたてよこに間をすかして組んだ、窓の建具。

注2 砥石Ⅱ刃ものをとぐ石。

注3 まゆねⅡまゆ毛の、ひたいの中心に寄ったあたり。

問一 太郎が安雄さんに会いにいったのは、なぜですか。適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア どんな仕事をしているかを見たかったから。
- イ いっしょに遊んでもらいたかったから。
- ウ どんな家に住んでいるか知りたかったから。
- エ 久しぶりに顔を見たかったから。

問二 Aにあてはまることばとして適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 仲間はずれに イ 軽べつ
- ウ そんけい エ 警戒けいかい

問三 Bにあてはまることばとして適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 胸むね イ 足
- ウ 頭 エ 手

問四 線①「いつまで待っても見てくれません」とありますが、それはなぜですか。

問五 線②「そういう」の指す内容を答えなさい。

問六 線③「一人前の大人になった」とは、この場合どういう意味ですか。適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 車大工の修業を始めた
- イ 一人前の車大工になった
- ウ 青年学校を卒業した
- エ 成人式をむかえた

問七 線④「しかたがないように、かすかに笑いました」とありますが、このときの安雄さんの気持ちとして適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 遊んでやりたいが、これからは仕事をきちんと覚えなければいけないのでわかってほしい。
- イ もう一人前なのだから、子供なんかとは遊ぶものか。
- ウ 仕事なんかやめて遊びたいが、しかられるのがこわい。
- エ 今は仕事なので、遊びに来られるとめいわくだ。

2 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

―学習のてびき―

川をどのように表現しているかに注意して、作者の表現したいことを読み取りましょう。

川

千家元磨

川、川
清い川

おまえは波立ち

① 楽しげに走ってゆく

② 笛のように歌いながら

曲がったり、まっすぐになったり

少しも休まず

流れゆく清い水よ

おもしろいからやかに

② みんなでおどりがって障害物を越えたり

② 輪を巻いて踊ったり

急に輪をほどいて走り出したり

狂うように楽しく興奮して

先へ先へと笛を吹いて走ってゆく

美しい水の精よ

純潔に平静に

からやかに屈託もなく

楽しい旅をしてゆく川よ

走れ、走れ

足並みそろえて

問一 ―線①「笛のように歌いながら」とありますが、何を笛の音

にたとえているのですか。適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 風の音 イ 川の流れる音

ウ 魚のはねる音 エ 人々の歌声

問二 ―線②「輪」は、何をたとえたものですか。適当なものを次

から選び、記号で答えなさい。

ア 川のうず イ 魚のむれ

ウ 障害物の形 エ 水のあわ

問三 この詩には、「たり」がくり返し使われていますが、これは川

のどんな様子を連想させるのに効果がありますか。適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア とても速く流れる様子

イ ゆったりと流れる様子

ウ リズミカルに流れる様子

エ 一直線に流れる様子

問四 この詩の作者は、楽しげにからやかに流れる川を描くことを通

して何をうたおうとしていますか。適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 現在の自分の生活への不満

イ 自然のすばらしさ

ウ 苦しみにたえる力強さ

エ 幼い日々へのなつかしさ

練習問題

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

学習のてびき

たとえや擬音語の使われ方を知り、詩のリズムを味わいましょう。

一つのメルヘン 注1
中原中也 なかはらちゅうや

秋の夜は、はるかかの方(かなた)に、
小石ばかりの、河原があつて、
それに陽(ひ)は、さらさらと
さらさらと射(さ)しているのであります。

陽(ひ)といっても、まるで珪石(注2)か何かのようで、
非常な固体の粉末のようで、
さればこそ、さらさらと
かすかな音を立ててもいるのでした。

さて小石の上に、今しも一つの蝶(たちょう)がとまり、
淡い、それでいてくっきりとした
影(かげ)を落としているのでした。

やがてその蝶がみえなくなると、いつのまにか、
今迄(まで)流れてもいなかった川床(せと)に、水は
さらさらと、さらさらと流れているのであります……

注1 メルヘンⅡ童話、おとぎ話。

注2 珪石Ⅱガラスなどの原料になる石。白・灰・赤などの色のものがある。

問一 この詩でくり返し使われている五字のことは書きぬきなさい。

問二 この詩には、次のように、現実にはありえない場面の表現がいくつかあります。次の□ A～Eにあてはまることばとして適当なものをおとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- A □ なのに、□ B □ が射している。
○ B □ が、□ C □ を立てている。
○ 蝶の影が □ D □ のに、□ E □ している。
ア 陽 イ くっきりと ウ 淡い
エ 夜 オ 音

D	A
□	□
E	B
□	□
	C
	□

2 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

学習のてびき

自然の営みを力強くうたっていることを読み取りましょう。